

総大腿動脈は閉塞し大腿深動脈に末梢側吻合部と中枢側吻合部を 2
箇所同時に必要とした CLI の 1 例

市立豊中病院 心臓血管外科

新谷 隆（しんたに たかし；37 才）

症例：76 歳，男性．2011 年から 2015 年にかけて左下肢 PAD に対し
て F-F (Rt CFA- Lt DFA) bypass (人工血管) や Lt F-P (AK) bypass (人
工血管) を施行，その後のグラフト閉塞に対し re-vision を施行し
た．2015 年 12 月にグラフト閉塞を認めたが症状は重度の跛行のみ
で経過観察としていた．2017 年 2 月より左第 II, III 足趾の虚血性潰
瘍を認め 4 回目の血行再建となった．術式選択には in-flow の選択
や使用可能な自家静脈の有無などに苦慮したが，特に吻合部位が問
題となった．左鼠径部では DFA の末梢しか吻合可能部位がなく，最
最終的に Ao-Lt DFA bypass (人工血管) + Lt DFA-P (BK) bypass (in-situ
SVG) を施行した．術後血流は良好であり救肢を得ることが出来た．